

# さくら地区たより

平成30年 3月 〈No.24〉  
桜地域まちづくり協議会  
宇都宮市桜3丁目2-22  
桜地域コミュニティセンター  
Tel/Fax. 636-2007



## 桜百景

## 新川

新川は、新里、仁良塚方面より細谷若草町県立養護学校和尚塚を経て松原の宇大附属小中学校の西側を通って桜二丁目地内で大通りを横切り、材木町安養寺、観専寺宇女高の操橋から六道地内で西原小方面と滝谷町滝尾神社に分かれ、宇都宮市文化会館の西側を通り宇高の東側を流れ江曾島方面へと流域が長いです。

昭和の初期は川底が浅くて赤土の粘土で両岸は大谷石の積上げ。今のようなガードレールもなく、転落事故がたびたびありました。また、夕立や台風の時期になると、川が溢れて桜通り交差点あたりまで浸水して大騒ぎになったこともありました。

平成10年頃、釜川の護岸大改修工事と一緒に新川も改修され、大通りの拡幅工事も完成し現在のような環境になりました。川の上にミニ公園が造られ、憩いの場所となっています。春になると、観専寺西側のしだれ桜が咲き、周辺の皆さんを楽しませてくれます。



# 桜地区防災訓練を 行いました

今年も恒例の桜地区防災訓練が当地域を担当とする西消防署、消防団第一、第二分団の協力のもとに去る10月1日に実施されました。

午前9時5分に宇都宮市直下でマグニチュード8震度7弱の地震発生により多くのライフラインに影響がでていたとの想定で行われました。

各自治会長から被災状況の報告を受け、訓練本部長が防災会各班长に指示を出し、各班长が対策実施内容を本部長に報告して訓練が開始されました。

倒壊家屋からの救出応急手当て、心肺蘇生(AED)、初期消火、煙道体験、小学校屋上から屈折梯子車を使用した救出の見学と搭乗訓練。体育館の屋上にある防火水槽を兼ねたプールを水利として行なわれた第一分団から第二分

団へ中継放水の見学と親子による消防車からの放水体験。起震車で地震体験等々、実際の災害を想定した実践的な形式で実施されました。

東日本大震災から、はや7年になろうとしています。九州熊本地震も記憶に新しく、テレビ外多くのメディアで地震発生による地盤のストレスで次の地震が誘発されるメカニズムも報道されています。

大災害が発生すると、地域行政や消防局も限られた人員で市民全員に対応することは不可能です。よくニュース等で、最初の三日間といわれますが、援助の手がさしのべられるまでの時間です。

来年度の防災訓練は、10月14日に実施する予定です。防災訓練を通して、日頃の防災に関する意識を高めていただければと考えています。



大勢参加しました



高所救出訓練



放水訓練



AED取扱い訓練



起震車体験



資機材取扱い訓練



← 第2回 わくわく桜講座  
靴下ハギレの指編み

**平成29年度  
まちづくり協議会  
主催講座の報告**



# 桜地域文化祭を 開催しました

「ふれあいがやく桜の文化祭」のスローガンのもと、昨年11月11日桜地域文化祭が行なわれました。忙しい中会議に出席し、皆でやろうを合言葉に、揃いのピンクのブルゾンを着た実行委員の背中にはやる気があふれていました。

開始早々、的当て、ヨーヨーつりに子ども達が大勢集まりました。ピザ窯からの香ばしい匂いに、来場者の足が向かいます。テントの下での食事はおいしく、自然とお隣の人も話しがはずみます。

会場の都合で出展に制限がありました。文化的な面でも力作が揃い、グループ制作の作品も多数展示され見応えがありました。

今回初の社協の「高齢者の安心といきいき暮らし展」の説明や講座紹介、各種団体活動報告の展示は、好評でした。

どうして？えっ？の連続だったマジックショー。ロッキーマスターさんの巧みな話術に引き込まれました。血流測定、骨密度測定、体成分測定等は、気軽にできるのがよく、並ぶ列が途切れませんでした。

三百人あまりが参加した桜ウルトラ〇×クイズ。地域のことを質問しているので、大人も子どもも楽しめました。これからは「住民が主役」。自分達ので楽しみながら地域の皆で進めようとビジョンでうたっています。文化祭は地域の一大イベントです。大勢の方が参加して、親睦を深める機会であって欲しいです。作新学院の生徒6名が、ごろっぺ、しょうちゃんを着ぐるみを着て頑張ってくれました。

企業、団体、商店、個人の皆さまからの賛助金のご協力ありがとうございました。



ミスターロッキーのマジック



野菜350gクイズ



とれそうで取れないヨーヨーつり



ごろっぺ、しょうちゃん。人気でした。



反射神経テスト



桜ウルトラ〇×クイズ



←第6回 わくわく桜講座  
タイの暮らしは魅力いっぱい



←第5回 わくわく桜講座  
ブタの小物入れ作り



# 市長と語る

## まちづくり懇談会が

### 開催されました。

去る11月28日に佐藤宇都宮市長と語るまちづくり懇談会が開催されました。

桜地域まちづくり協議会では平成28年度にビジョン策定委員会を発足し、一年間かけてさまざまな討議を経て「ふれあう桜・かがやく桜・すみよい桜」と題して小冊子にまとめました。平成29年度はビ



ジョン実行のスタートとなる重要な年となります。

この時期に、佐藤市長と関係する市職員とともに語り合える機会を得られたことはたいへん貴重な意義あることです。

地域代表意見として最初は、大寛三丁目自治会会長の大貫裕さんが「LRTのトランジットセンターと桜地域の未来」とのテーマで意見を発表しました。桜地域を宇都宮の副都心として再生化して欲しいという雄大な構想です。

桜地域はマンションが多く、若者が多数住んでいることなどを指摘し、単なる交通の利便性だけでなく、文化の発信地として小劇場を建設して欲しいという案を示しました。また、桜地域の名称を活か

し、桜をセンターの名に冠するとともに、桜を植え、LRT沿線に桜の賑わい、公園に桜満開の桜の名所として再開発させたいとの案も示しました。

そして、日光への顔、大谷への顔として、観光案内など目に見える建造物や施設を備える案も提言しました。

市長は、LRTを具体化する段階で総合的に考えたいと答えてくれました。

地域代表意見の二番手は、西一の沢自治会会長の安納ハツエさんの「危険な交差点」についての改善を望む意見でした。

旧鹿沼街道と作新学院前通りの交差する十字路ですが、小中学校の通学に加え自転車通学の高校生の数も多く、自動車の通行量も増えており地元住民の不安の声も多く聞かれます。ビジョンでも「安心と安全」は重要なテーマのひとつであり、安心して住めるまちとするためには道路は避けては行かない問題です。が、行政の力なくしては解決



できない問題でもあるので、提案されました。

市長も諸般の事情を考慮して、早急の善処を約してくれました。

地域代表の三番目は、ビジョン策定委員会の委員長だった大場恒夫さんです。前述の通り今年度はビジョン実行の初年にあたりますが、市の補助金は単年度決算のためビジョンは策定されても、実現のための事業へのスタートができるのは、支援事業補助が認可され、補助金が支給された後になってしまうという悩みです。柔軟な仕組みを考慮してほしいという提案でした。市長は、市ではいろいろな事



←身体すまいる講座  
三ガ編